

□ 「ぼく（光輝）」は母親（伸子）と二人暮らしの小学五年生である。「ぼく」は友達もできて学校が楽しくなって来た頃に、母親から「みどりさん」と新しい仕事を始めるため引っ越しをすると告げられる。しかし転校を嫌がった「ぼく」はそれにはついて行かずに、夏休みから祖父の家で生活することになった。この場面はその生活が始まって十日後のことで、今日（八月一日）は「ぼく」の誕生日である。これに続く文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「今日は伸子が来るらしいぞ」

え？

おじいさんは、ぎゅっとひとつ笑って、そのまま行ってしまった。

母さんが来る。母さんがこの家に来るんだ。ぼくは純粋にうれしかった。おじいさんのうちに引っ越してから、まだ間もなかったから、それほど恋しさはなかったけど、母さんに会えるのはやっぱりうれしかった。

母さんと離れて暮らすことにたくさんの心配はあったけど、思っていたよりも気持ちは落ち着いていたし、不安に思うこともほとんどなかった。母さんがここにいてくれれば、と思うことはあったけれど、ついこないだまでの母さんとの二人きりの生活に戻りたいとは思わなかった。

ぼくは自分で意識しないうちに、おじいさんという、母さん以外の身内の存在をとて心強く感じていた。母さんがいなくなったらどうしよう、というぼくの最大の心配事は杞憂だった。ぼくにはおじいさんがいた。そして、今は離れているけど母さんもいるのだ。二人いれば大丈夫なんだ、という根拠のない自信はぼくを元気にさせてくれた。

「行ってくる」

と言って、おじいさんが仕事に行ったあと、ぼくはいつものように廊下の雑巾がけをはじめた。今日も暑くなりそうだなと思う。

誕生日。毎年思うことだけど、ぼくが八月一日生まれというのはまるで似合わないような気がする。夏の誕生日の子たちは、明るくて元気で活発というイメージだ。

ギィという慣れた音がした。ぼくは高い位置にあった腰を落とし、正座のような格好になって、木戸のほうを見た。黒い日傘をすばめ、少しがんでその人は入ってきた。

「光輝」

母さんだった。

このときの場面を、ぼくはとても鮮明に覚えている。^②映画かなにかのワンシーンを見ているように、ぼくは、ぼくを含めた広縁と庭と木戸と母さんを、少し離れた場所から、しずかな気持ちで眺めていた。

「陽に焼けたわね」

ぼくを見て、母さんは笑った。ぼくの心の中はともしずかだった。まだほんのわずかの日数だけど、母さんと離れて暮らしたのはじめてだったし、生まれてこのかた、よその家に泊まったことすらなかった。それなのに、久しぶりに会った母さんを見ても、ぼくの心はなぜか静かだった。

「元気にしてる？」

母さんは広縁に腰かけて、折りたたみ式の日傘を丁寧にたたみはじめた。なんだかちがう人みたいだった。母さんはぼくの知らない白いワンピースを着て、ぼくの知らない白いサンダルをはいていた。

「うん」

と返事をして、ぼくの心はひんやりとした。ぼくの考えていた再会（といっちはおおげさだけど）とちがっていた。ちがっていたのはぼくの気持ちで、ぼくはもつと喜んでうれしがらざるのに、と残念に思った。

「母さんは元気だった？」

「うん、まあまあかな」

と、ここではじめてお互いの[B]を合わせたと思う。「麦茶をいれてくる」と言って、ぼくは手に持っていた雑巾を片付け、台所へ行った。涼しい家の中から、縁側に座っている母さんのうしろ姿を見ると、それこそ、ぜんぜん知らない人に見えた。

「はー」

お盆に載せたふたつのコップから、母さんはひとつを手にとり、そっと[C]をつけた。

「ああ、おいしいわ。ありがとう」

ぼくも飲んだ。すっかりこの麦茶の味に慣れてしまった。母さんと二人で住んでいたときの麦茶の味はもう思い出せなかった。

「この暮らしはどう？」

いつのまにか、手を膝に置いて正座をしていた自分に気付いて、ぼくはそそくさと縁側に足を下ろした。

「うん、たのしいよ」

「おじいさんはよくしてくれる？」

「うん」

そう、よかった、と母さんは言った。

「母さんのほうは？ 仕事はどう？ みどりさんは？ 新しい家は？」

矢継ぎ早に聞いてしまっただけじゃあ、ぼくの気持ちとうらはらだ、と思った。けれど、母さんの新しい仕事のことは、頭のどこかでずつと気にかかっていた。母さんの引越先にもぼくは行ってないから、どんな生活をしているのか、時々考えることはあった。

「仕事のほうはまだ準備段階かなあ。いろいろな準備をして、自分でもいろんな勉強をしているの。お客様がつくのは時間がかかるわ。」

みどりさんは、とてもよくしてくれるのよ。彼女がいなかったら、私一人ではなにもできなかったわ。みどりさんと、新しい住まいに一緒に住むことになったの。下がお店だから、ちょうどいいのよ。広いから光輝もいくらだって泊まりに来られるわ。

今はまだ荷物が片付いてないんだけど、あと一週間もすればきちんと片付け、光輝の部屋も用意してあるの。みどりさんも会いたがっていたから、いつでも来てね。電話もひいたから、いつでもすぐに電話しなさいね」

母さんの話し方は、ひどくゆっくりだった。言葉ひとつひとつを言い含めるようにゆっくりとしゃべった。もともたらずかに話す人だったけど、前とはちがう。頭の中の大事な部品のひとつが消えてなくなって、その代わりに形も材質も機能もまったく異なる部品が、聞いたこともない製造元から搬入されたみたいだった。

その部品に名前をつけるとしたら『現実』と『妄想』だろうな、とぼくは大人になってから思いあたった。けれど、十一歳になりたてのぼくには、それがなんなのか、もちろんわからなかった。

「これ、ケーキ。すぐおいしいって評判のお店で買ってきたのよ。あとで食べましょう」

ぼくは母さんからケーキを受け取り、当然のようにそれを冷蔵庫にしまった。冷蔵庫の中はケーキの箱を入れる隙間がなかったから、ぼくは、ラップがかかっている漬物やハムのお皿をどけて、瓶詰のらっきょうや紅しょうがを整理して、納豆のパックを横にやって、ケーキのためのスペースを作った。その作業をしながらなんとなく違和感が残った。その違和感に気付いたのは、おじいさんが帰ってきてからだった。

「たがいま」

おじいさんは昼過ぎに帰ってきた。母さんを見て、眉毛を一瞬だけぴくつとさせ、「ああ」と言った。

「おじやましてます」

母さんはゆっくりとした動作で頭を下げた。ん？ と思った。おじやましてます？

ああ、そうか。ようやく合点がいった。母さんはこのうちの人ではないんだ、と。そして、ぼくはこのうちの子になったんだと。このうちの子だから、お客さんには麦茶を出すし、お客さんから頂いたケーキは冷蔵庫内にしまう。お客さんだから、「おじやましてます」と言うのだと。

③ ぼくはそれを当然のように受け入れていた自分が不思議だった。たったこれだけの期間で、ぼくはもうこのうちの子になってしまったんだ、と複雑な気持ちだった。

「ほら、これ」

おじいさんは大きな紙袋かみぶくろを持っていて、それをぼくに差し出した。中身を見ると、それは水槽すいそうだった。酸素のセットも入っている。

「佐々木さんのとこの息子むすこさんが昔使っていた水槽だけど、ほんの少しの間しか使わなかったみたいだから新品同様だと。これに子どもを入れたらいい」

子どもというのがグッピーの赤ちゃんだとわかるまで数秒かかって、この水槽が誕生日プレゼントとわかるまでさらに数十秒かかった。

「どうもありがとう」

ちようどメスのグッピーのお腹なかが大きくなっている。明日かあさつてには赤ちゃんが生まれそうだ。どうやって親から隔離かくりするか、考えていた矢先だった。魚いしすくいの網あみを水槽に入れて、その中で赤ちゃんを飼おうかな、なんて思っていた。

「さつそく使います。おじいさん、ありがとう」

紙袋から水槽を取り出し、外で丁寧に洗った。水をためて酸素ポンプも試してみたけど、なんの問題もなかった。水槽は本当にまだ新品で、外側にはネオンテトラと水藻みずもの写真のシールが貼はったままだった。水槽に井戸水を入れて、外に出しておいた。水道水じゃないから大丈夫だろうけど、念のために日干しすることにした。

水槽を洗っている間に、ちらりと母さんのほうを見た。おじいさんに促うながされて、ようやくといった感じで、中に入るのが見えた。縁側で二人でただ座まっているけど、ぼくはどうしたらいいのかわからなかった。一緒に住んでいるときだって、特別な話をするわけではなかったけど、今の状況じょうきょうで二人きりになるのとはちがって、それは毎日の生活せいかつの中でのごくごく自然のことだった。けれど、今はもうがうみたいだった。間まがもたないような感じがした。たった十日しかたっていないのに。

④ 母さんの雰囲気ふんいきが前と変わったことが原因げんいんかもしれない。それともぼくのほうが変わってしまったのだろうか。ぼくは大汗おほあせをかきながら、水槽をこごと洗った。鼻はなの下の汗あせの粒つぶを舌しほでなめた。しょっぱい味がした。

縁側で座まっていると、玄関げんかんのチャイムが鳴った。たいていの人は庭の木戸からやってくる。玄関から入ってくる人は、郵便屋さんくらいなものだ。ぼくは「はい」と返事をして顔を出した。

「高橋自転車店です。自転車の配達にうかがいました」

自転車？ 奥おくから母さんが出てきて、庭のほうにまわってください、とおにいさんに伝えた。はい、と元氣よく返事をしたおにいさんは、あつという間に木戸から自転車をくぐらせた。手品てしんみたいな早わざだった。

それは、青いフレームの自転車だった。古い屋敷やしきの中で、新品の自転車だけが場ばちがいみたいにある。タイムマシンかなにかで突つ如じょ現げんれた未来の物体ぶたいみたいだった。

おにいさんはここにこしながら、だれにでもわかるようなあたりまえの自転車の説明をして、「まいど」と言いって出ていった。

「どうしたの、これ」

ぼくがたずねると母さんは、誕生日プレゼントよ、と言いって、スペアの鍵かぎをぼくにくれた。

「お誕生日おめでとうね」

びっくりした。今日はびっくりすることばかりだ。自転車は、引越ひきこしのときに処分しぶんしてしまっていた。だれかのお古で相当古たうとうふるかったし、それにぼくには少し小さくなりすぎていた。

「おお、やはり新しいものはちがうな」

おじいさんが言った。おじいさんがいつも修理しゅうりしている自転車と比べているのだろう。青い自転車はぼくの目めから見ても、とても高価こうかそうだった。ママチャリじゃなくて、ハンドルがまっすぐでサドルの位置ちゐが高いタイプのやつだ。

「ありがとう。いいの？ こんな高そうな自転車」

「みどりさんと相談さうだんして買ったの。今いまどきの五年生ごねんせいはこれくらいくらいの自転車じゃなきゃね、って」

⑤ ああ、そうか。そういうことか。とぼくは思った。具体的にくわてきにながさういことなのかはわからなかったけど、ぼくが心こころの中で言った言葉は、「ああ、そうか。そういうことか」だった。特に頭あたまにきたり、悲かなしくなったりはなかった。そういうことなんだな、と思っただけだ。

(椰月美智子『しずかな日々』より)

問一——線①「不安に思うこともほとんどなかった」とありますが、これはなぜですか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、ア～エの記号で答えなさい。

- ア 祖父は「ぼく」のそばにこれからもいてくれると、納得することができたから。
- イ 母も祖父も「ぼく」にはついてくれていて、素直に信じていることができたから。
- ウ 祖父は「ぼく」を頼りにしているのだと、己を誇らしく感じる事ができたから。
- エ 母も祖父も「ぼく」のために行動していると、振る舞いから察することができたから。

問二——線 a・b の本文中での意味として適切なものを次の中から一つずつ選び、ア～エの記号で答えなさい。

a 杞憂

- ア 心配しなくてもいいことをあれこれ心配すること
- イ 以前から気になっていたことに思い悩むこと
- ウ 不安になってしまい色々なことが気がかりになること
- エ 遠慮してしまつて自分の態度がはっきりとしないこと

b 矢継ぎ早に

- ア その場でいきなり
- イ 何気なくひっそりと
- ウ 節度がなくやたらに
- エ 続けざまにすばやく

問三 [A]・[B]・[C] にあてはまる、身体の一部を表す漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問四——線②「映画かなにかのワンシーンを見ているように、ぼくは、ぼくを含めた広縁と庭と木戸と母さんを、少し離れた場所から、しずかな気持ちで眺めていた」とありますが、この時に「ぼく」は母親のことをどのような存在として感じていましたか、「〜」に感じた。「〜」に続くように、本文から十字以上十五字以内の表現を抜き出さなさい。

問五——線③「ぼくはそれを当然のように受け入れている自分が不思議だった」とありますが、これはどういうことですか。六十字以内で説明しなさい。

問六——線④「母さんの雰囲気の前と変わった」とありますが、この変化を比喩を使って表現した一文を本文から探し、その最初の五字を抜き出さなさい。

問七——線⑤「ああ、そうか。そういうことか」とありますが、「ぼく」がそのように感じた理由の説明として適切なものを次の中から一つ選び、ア～エの記号で答えなさい。

- ア 祖父は「ぼく」に欲しいものをしつかり尋ねて水槽を用意したのに対して、母親は何もきくこともなく自転車を持ってきたから。
- イ 祖父は「ぼく」を一人前の大人と思い水槽を用意したのに対して、母親は「今どきの五年生」を調べて自転車を持ってきたから。
- ウ 祖父は「ぼく」に必要なものを感じ取って水槽を用意したのに対して、母親は他人の言うことを参考にして自転車を持ってきたから。
- エ 祖父は「ぼく」の様子から水槽が必要だと思い用意したのに対して、母親は息子には自転車が必須だと確信して持ってきたから。

問八 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、ア～エの記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」は母親の買ってきたおいしいと評判のケーキを目立つ場所に置こうと、冷蔵庫の中身を整理した。
- イ 「ぼく」は八月一日生まれであることについて、自分の性格にぴったりの日だと自信を持っていた。
- ウ 「ぼく」は引越しの時に処分した自転車、自分にちょうどいいもので気に入っていた。
- エ 「ぼく」は水槽を洗いながら、母親が訪ねてきた時の自分の気持ちを整理しようとした。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ひとりで考え、^①哲学するには、孤独になる必要がありますが、「孤独は連帯と」A「である」ことを忘れてはいけません。孤独になっても、他者とのつながり、連帯感を持ち続けることが非常に大切なことです。そしてまた、「連帯といっても誰と連帯するか」、それが大事な問題です。

そのために常日頃から、自分の考え、好み、思想をしつかり固めておく必要があります。人に会って、対話を重ねている時、共感がうまれ、握手をするには、自分の思想・感覚が前提になるからです。

哲学するには、なにも哲学書を読むとはかぎりません。

自分を見つめ、人々を観察し、人間とはなにものかを常日頃から考えるのです。人は善人に見えても、B「があり、悪人でもC」を秘めていたりします。そこで自分はどう生きればよいか、を考えるのです。

そうして哲学する時、人間を取り巻く社会環境にも視線が向けられるのは、ごく自然のなりゆきです。その視線が、自分を取り巻く社会から国へ、さらに国と国、国際社会へ、地球全体へ、そして宇宙にまで向かうのも、当然のことです。

大きくは、地球の温暖化、北極・南極の氷河の解凍、など地球をめぐる気象状況への関心、近くは、生きていくうえで、まず自分を取り巻く共同社会へ向けてアンテナを張り、できることならもっと住みやすい社会・国家であってほしいと願うのも、ごくあたりまえのことでしょう。

そこで、社会や政治のありかたが今のままでよいのか。ここをこう変えたらもっと生きやすい、より良い社会・国家になるのではないか。そのためには、今、自分はどう行動したらよいか。

そういったことを考えるのは、選挙で^②政治家を選ぶ権利(選挙権)をあたえられた者の義務でさえあります。

日本でも、選挙権が、やっと欧米なみに、十八歳からあたえられました。

高校生は、選挙権を行使する準備にとりかかる必要があります。

フランスの高校生が、正式に教科として「哲学」を学ぶことについては先にふれました。それと並んで、社会参加や誰と連帯するかを考えることも学ぶのです。選挙権を行使する前の段階として、街頭デモをすることも、^③フランスではゆるされています。両腕を組みあつて、街路いっばいに、ゆっくり歩くあの「フランス式デモ」です。

その顕著な例として、一九六〇年代の大学改革のデモがあげられます。

パリ大学は、その結果、十三校にふくれあがりました。ソルボンヌ大学はその結果、パリ第一、第三、第四大学となりました。二〇一八年十二月にも、大規模なデモがありました。

デモは自国の国政についてとはかぎりません。外国で軍事クーデタが起こって、住民の自由がうばわれ、圧政が敷かれた場合、自由、平等、友愛の国フランスの名において、心ある人たちは、街頭に出て、その国の住民との「連帯」を呼びかけ、デモをおこないます。

ともあれ、高校生の時から、身辺や国内政治や世界情勢などに、アンテナを張り、日頃から動向をキャッチする習慣が求められます。

自国や外国の国政に関するデモばかりが、社会参加ではありません。日頃から自分が住んでいる共同体の問題解決に参加したり、町や村のお祭りとかダンス・パーティに参加するのも、その一つです。

ここで、フランス人に愛されている「^④広場」がどういうものか、歴史秘話をまじえながら、考えてみましょう。

みなさんは、パリの町のつくり、あの凱旋門のあるド・ゴール広場から、メイン・ストリートが放射状に出ている写真を見たことがあるでしょう。しかし、その街路の先ごとに、また広場があつて、そこからまた街路がいくつも出ていることを知っていますか。

その街路は広場に集まるといふか、広場に出られるようになっていて、住んでいる町の問題を住民が討議する場合に、広場に集まりやすいよう設計されているのです。つまり街路が向かう広場は、住民の集まりやすい広場なのです。

広場は、住民共有の広場なので、集まって議論したり、ダンス・パーティをしたりする時、使われます。おもなパーティは、七月十四日の革命記念日におこなわれ、その日は広場の中心に臨時舞台が設置され、バンドの生演奏があるのがふつうです。日本の盆踊りの舞台を思いうかべると、イメージが早くつかめます。提灯のかわりに、万国の国旗が飾られます。

このような広場は、地方の町や村にもあつて、住民共有の広場として使われ、親しまれています。

十八世紀のフランス大革命の際に、マリー・アントワネットや夫のルイ十六世国王、それに革命側の首領までの処刑をおこなった「断頭台」が置かれていたのは、多くの国民が集まって注視できる、シャンゼリゼの大広場でした。

十九世紀に、パリ市長でもあったE・G・オスマン男爵が、パリの街路を現在のように整備しました。その時、文字通り、^b血で血を洗ったその広場は、「コンコルド(和解)広場」と命名されて、現在にいたっているのです。

このほか、フランスで社会参加として考えられるのは、キリスト教そのほかの宗教行事ですが、こんにちでは、「ライシテ」(政教分離)

といて、政治と宗教を切り離すことが、法律で定められています。

すこし横道へそれました。みなさんも、社会参加へのアンテナをしつかり張り、連帯できる人の選択をまちがえないように、準備しましょう。

日本の民主主義は、残念なことにまだ成熟の域に達していません。みなさんの双肩にかかっています。日頃から、本当の政治家でない「政治屋をチエック」したり、世の中の動きにアンテナを張り、注意を怠らないよう努めたいものですね。

(小島俊明『ひとりで、考える―哲学する習慣を』より)

問一 ― 線①「哲学する」とありますが、それはどういうことですか。「こと」につながる形で本文から四十字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問二 [A] にあてはまる四字の言葉を次の漢字を組み合わせて作りなさい。

一 二 三 択 体 者 裏 心 同 表

問三 [B]・[C] にあてはまる表現として適切なものを次の中から一つずつ選び、ア、カの記号で答えなさい。

- | | | |
|---------|----------|----------|
| ア 裏切ること | イ 不安な気持ち | ウ 悔しがること |
| エ 真剣な思い | オ 反省すること | カ 清らかな愛 |

問四 ― 線②「政治家を選ぶ権利(選挙権)をあたえられた者の義務」とありますが、それはどのようなことですか。四十字以内で答えなさい。

問五 ― 線③「フランスではゆるされています」とありますが、フランスで高校生にデモをすることがゆるされているのはなぜですか。次の [] に入るように本文から四十字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

高校生に [] を身につけさせたいから。

問六 ― 線④「広場」とありますが、本文での「広場」の説明として適切なものを次の中から一つ選び、ア、エの記号で答えなさい。

- ア 広場は地域の人々に多くのアトラクションを提供し、人々のイメージーションを刺激する空間である。
- イ 広場は住民同士のコミュニケーションの場であるとともに、住民のディスカッションの場でもある。
- ウ 広場は地域のネットワークの中心であり、その一方で住民たちが唯一リラックスできる場所でもある。
- エ 広場はいま盛んに交流イベントが行われているが、実はかつてテロ事件が発生したいまわしい土地である。

問七 線a～cの本文中での意味として適切なものを次の中から一つずつ選び、ア～エの記号で答えなさい。

a まじえながら

ア 照らし合わせつつ

イ 組み合わせつつ

ウ 比較しつつ

エ 取り入れつつ

b 血で血を洗った

ア 順々にむごたらしく殺害した

イ 悪事を悪事でかくそうとした

ウ 身内のような同国人同士が殺しあった

エ 親しい者たちが互いに傷つけあった

c 域に達して

ア 段階になって

イ 末端に届いて

ウ 状態にかわって

エ 結果に至って

問八 線⑤「政治家」と線⑥「政治屋」について、その違いの本文の内容にもとづいた説明として適切なものを次の中から一つ選び、ア～エの記号で答えなさい。

- ア 政治家とは何代にもわたって国家に尽くしている家系の人物であり、政治屋とは政治を職業だと考えている人物である。
イ 政治家とはゆるがない信念と理想を持った人物であり、政治屋とは現実の成果をひたすら重視する実務的な人物である。
ウ 政治家とは地球全体や国際社会に幅広く目を向ける人物であり、政治屋とは自分の国のことしか念頭にない人物である。
エ 政治家とは公共の利益や社会福祉のために働く人物であり、政治屋とは自分自身や自分の政党のために働く人物である。

問九 ①～⑤は、三つの()にすべて同じ言葉があてはまります。それぞれ適切な言葉をひらがなで答えなさい。

① 代理を() 予定を() 志を()

② 丈を() 差を() 話を()

③ 弓を() 気を() 熱が()

④ 虫唾が() 衝撃が() 悪事に()

⑤ 話題に() 利益が() 煙が()

四 次のそれぞれの――線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- 1 身をコにして働くつもりだ。
- 2 自立心がメバえる。
- 3 ケイカイな足取りで歩む。
- 4 契約書のモンゴンをあらためる。
- 5 雑誌をヘンシユウする。
- 6 兄の言い分にヘイコウする。
- 7 嵐の中をコウカイする。
- 8 あまやかされてゾウチヨウする。
- 9 チョクゾクの部下が成果を上げた。
- 10 新しい環境にジュンノウする。

一	
問一	
問二	
a	
b	

二	
問三	
A	
B	
C	

三	
問四	
問五	
問六	
問七	
問八	

四	
問五	
問六	
問七	
問八	

一	
問一	
B	
C	
S	
S	
こと。	
問一	

二	
問三	
B	
C	
問四	

三	
問五	
S	
問七	
a	
b	
c	

四	
④	
⑤	
③	

一	
6	
7	
8	
9	
10	

受験番号
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 20px; border-bottom: 1px dashed black;"></div> <div style="width: 20px; border-bottom: 1px dashed black;"></div> <div style="width: 20px; border-bottom: 1px dashed black;"></div> </div>

氏名

一	
二	
三	
四	

合計